

令和6年（2024年）度行政評価シート【個表】 令和 6 年 8 月 13 日

評価対象事業		評価者	生涯学習課長 飯田 拓也	
教育-49	社会教育運営事業	☒ 自治事務	主管課	生涯学習課
		☐ 法定受託事務	関連課	教育総務課・学務課
総合計画上の位置付け	分野	4-(5) 生涯学習	施策の方針	4-(5)-①生涯学習環境の整備・充実

1 事業の目的

対象	市民等
意図	「生きがい」や「自己実現」のみならず、地域社会の活性化や高齢者の社会参加の促進など、豊かな地域づくりを目指すため。
効果	「誰もが、いつでも、どこでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価される」ような生涯学習社会を構築する。

2 令和5年(2023年)度を実施した事業の概要

・社会教育委員会議定例会を開催した。 ・社会教育振興事務として、～春夏秋冬～鎌倉武を企画し、「春の鎌倉探訪」、「なつの学習会」、「秋のスケッチtime」、「冬のウィンターコンサート」の4事業を実施した。 ・社会教育振興事務として、大学公開講座を開催した。	
---	--

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和5年度		令和6年度	達成度
				指標(実績値/目標値)		指標(目標値)	
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)	
01	社会教育委員会運営事務	社会教育委員会年4回の開催	社会教育委員会年4回の開催数(回)	4 / 439	4 671	4 795	
02	社会教育振興事務	鎌倉武	鎌倉武の開催数	4 / 251	4 473	4 410	
03	社会教育振興事務	大学公開講座	大学公開講座開催数	2 / 150	2 150	1 190	
		財源内訳	国県支出金	/			
			地方債	/			
			その他特定財源	11 / 11		4	
			一般財源	829 / 1283		1,098	
		事業費の合計 (千円)		840 / 1,294		1,102	
		人件費 (千円)				5,893 6,111	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	0.3	0.6	0.7	0.7	0.7	
会計年度任用職員	1.0	1.0	0.4	0.4	0.4	

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	社会教育委員会運営事務	健全な社会教育運営のため、社会教育委員会議定例会を開催した。	豊かな資源を生かした生涯学習の推進や、生涯学習を支える人材・担い手の育成等について助言を頂いた。	令和7年の生涯学習プラン改正に向けて、本年度社会教育委員会議では定例会に加え小委員会を設け、助言・指導をいただき取り組んでいくことが必要である。
02	社会教育振興事務	鎌倉の環境・人材を活かし、子どもたちの学習機会を提供した。	地域における学習機会・場所の確保を提供することができた。	引き続き、豊富な人材や歴史的遺産・資料の活用のための環境整備や、プログラムの検討、周知が必要である。
03	社会教育振興事務	鎌倉女子大学と講座開設委託契約を交わし、開催した。	市民に関東大震災についての学習機会を提供することができた。	市民への周知方法を更に広げ、より多くの方々に参加してもらうよう努めていきたい。

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	3 外部化ができる事業はない
	関連・類似する事業の統合はできないか	2 統合に向けて検討できる事業がある
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	2 目的達成のために手段(最小事業)を改善する余地がある
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-2 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済 ○-2 市民等と協働して適切に事業を実施している
		協働実施済の場合のパートナー 社会教育委員

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	☐ 拡充	☐ 改善・変更	☒ 現状維持	☐ 縮小	☐ 休止・廃止
社会教育振興事務については、既存事業が新型コロナウイルス感染症対策の影響により、2年間、事業の中止・縮小が続いたが、生涯学習プラン、社会教育委員会議の助言を踏まえ、昨年度から徐々に再開し子どもたちや市民が、自由に学習する機会の提供や世代を超えて触れ合うことができる機会を増やすことができてきている。生涯学習の実現に向けて、既存の事業の内容で学びが深まるよう、企画・運営していく。					

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	【社会教育委員会運営事務】社会教育委員会年4回の開催						単位	回
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
鎌倉市社会教育委員会議規定第2条第2項で年4回の開催が規定されている。	目標値		4	4	4	4		
	実績値	4	4	4	4			
	達成率		100.0%	100.0%	100.0%			

指標(単位)	【社会教育振興事務】社会教育事業の数						単位	事業数
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
生涯学習の推進	目標値		2.0	8.0	6.0	5.0		
	実績値	0.0	1.0	5.0	6.0			
	達成率		50.0%	62.5%	100.0%			

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名	鎌倉市							
他市実績								

当該事業実施に伴う
他市比較に関する考え方